

リスク管理基本方針

公益財団法人日本サッカー協会(以下、「本協会」という。)は、本協会に生じる様々なリスクを管理することが最も重要な課題のひとつであると認識し、適切にリスク管理することより、本協会の理念を追求すべく、継続して事業を健全かつ効率的、効果的に推進します。

1. 基本的な考え方

物理的、経済的また信用上の不利益や損失を生じさせるすべての可能性をリスクと捉え、本協会が組織的に一体となって、その要因の事前識別、分析及び評価すると共に適切な対応及び損失の最小化を図るよう措置し、対応します。

また、緊急事態には、組織の機能を維持し迅速な復旧ができるようにします。

2. 目的

リスクを適切に管理することにより、本協会の存在価値及び社会的価値の維持向上を目指し、業務の持続的な遂行、信頼性の維持向上、また、本協会役員及び職員(以下、「役職員」という。)の安全、健康確保並びに本協会資産の保全を行うことを目的とします。

3. 行動指針

- (1) リスクの適切で確実な管理のために、「リスク管理規則」を定めます。
- (2) 役職員に対して教育・訓練を行い、リスク管理に対する意識の醸成を図り、役職員が適切に行動できるようにします。
- (3) 日常的に本協会の社会的価値の向上を図ると共に社会的要請をリスク管理に反映させ、リスク顕在時には、説明責任を果たしつつ、責任ある行動を取ります。また、ステークホルダー、役職員の健康及び利益を損なわないよう行動します。
- (4) 非常時や緊急時には人命の尊重を第一に捉え、関係機関や地域社会と連携して行動して経営資源の保全を図ると共に事業の継続を図ります。

4. 推進体制

適切なリスク管理のために、会長を最高責任者とした体制を構築します。

2018年5月17日

公益財団法人 日本サッカー協会
会長 田嶋幸三